

第 37 回支援連絡調整会議 議事録

日 時：2016 年 7 月 12 日(火) 10:00~12:00
場 所：下矢作地区コミュニティセンター 第一・第二会議室
出席者：17 団 29 名
文責：酒井（事務局）

1. 事務局連絡（10:00~10:05）

- ポータルサイトについてのアンケートへの協力依頼
より有効な情報を発信していくためにポータルサイト改善を進めている。本日、皆様の閲覧状況やニーズを知るためにアンケートを配布しているので協力をお願いしたい。
- 活動報告および今後の活動や告知など（事前に共有いただいたもの） ※敬称略

地域福祉課／鶴嶋	・「高齢者向け給付金（年金生活者等支援臨時福祉給付金）」 申請受付は 7 月 19 日（火）に終了となる。現在、対象者の約 8 割の方の申請を受け付けた。 ・「臨時福祉給付金」と「障害・遺族年金受給者向け給付金」 8 月中旬以降を予定している。詳細は配布資料参照。質問などは域福祉課までご連絡いただきたい。
----------	--

2. 講演（10:05~11:05）

- 『陸前高田の民泊の取組み』
一般社団法人マルゴト陸前高田 大久保光男さん、伊藤雅人さん、永田園佳さん

《一般社団法人マルゴト陸前高田の紹介》

2014 年 7 月、前身である「まるごとりくぜんたかた協議会」が観光物産協会内の専門部会として設立された。目的は、陸前高田市の着地型観光推進。きちんと「しかけ」を作り陸前高田への来訪者を増やそうと動き出した。陸前高田の経済活性化を交流人口の拡大によって実現するために、地域の良さを活かした滞在プログラム事業を推進し陸前高田のランドオペレーター（着地型旅行事業者）となること、また陸前高田に来たい方々への窓口のワンストップ化も含めて、2016 年 4 月に一般社団法人マルゴト陸前高田として独立。協議会発足後の企業研修や修学旅行等による訪問者は、2014 年度約 3 千人、2015 年度約 6 千人。今年度も少し増える見込みで、受入れノウハウを蓄積しながら進めている。

《民泊事業》

マルゴトの事業として大切にしている「学習」や「命の大切さを学ぶ」ことのエッセンスが民泊プログラムに収斂されていると考えている。

顧客の獲得は、DMで全国の小中学校にチラシを送り（約3千部）働きかけた。「民泊ブーム×震災の地である陸前高田」にアンテナを立ててくれたのはごく一部だが、先生方から問合せがあった。修学旅行は旅行会社が何年も前からプランを提示して営業をかけて決まるのに対して、民泊は学校側が関心のあることを旅行会社にオーダーを出すので、旅行代理店からも問合せが来る。受入れ家庭は民泊体験指導料としてお金を受け取るその家庭の普段の生活をそのまま体験してもらうのが基本。民泊事業は、県の公認のもと市と一体となってスタート。県の指導に基づき安全のための講習会も義務付けられている。6月の受入れに先立ち小友・米崎・広田の受入れ家庭に対して行った講習会では、スタッフから「これは30年度50年後の陸前高田の将来を背負う事業。それくらいの覚悟と想いをもって大規模に子どもたちを安全に受け入れたい。」と話をした。

《6月に実施した修学旅行での民泊受入れの様子》

民泊をはじめのきっかけは、企業研修等で日帰り、もしくは気仙沼・大船渡など近隣に宿泊して陸前高田を訪れる方々からの「もっと話したかった」「陸前高田に泊りたい」といった声だった。地元の方々と過ごす時間の中で、より深く人と交流することを一番大切にしている。また、指導料として謝礼を渡すことで地域が物心両面で豊かになることを目指している。

6月は初めての受入れだったが、沢山のドラマが生まれ深く結ばれることができると感じた。

- ・先生方から素行に問題があると言われた生徒→受入れ家庭からは「いい子だった」
- ・犬が苦手な生徒→最初は相性が悪くても最後には仲良くなった。

さらに多くの方にこの喜びを体験して欲しい。今秋に4校（約300名）+ツールド三陸で民泊実施、来年度は仮予約の学校を含めて1,500名以上の生徒が訪れる予定で、受入れ家庭を開拓中。市観光課とも相談して市関係者やその周辺にも声をかけ始めている状況だが、みなさんと一緒に盛り上げていきたい。興味がある方がいたら連絡をいただきたい。

また、持続した関係性づくりも考えており、実際にはこちらからだけでなく受入れ家庭も独自に様々な仕掛けを行っている（りんご農家で摘果作業をした子どもたちに収穫時に作業したりんごを送る等）。

《陸前高田で民泊事業を行う目的》

「陸前高田で行う民泊修学旅行事業では、民泊に関わる人たちが、高田オリジナルの素敵な体験をすることで、ハッピーな人との触れ合いとお金が掛け合わさり、無限の相乗効果が生まれていく状態を作り出す。」

→これは、マルゴト陸前高田と広田町で民泊事業を進めてきたNPO法人SETと一緒に目的

をまとめ理念として文章化したもの。「民泊に関わる人」とは、コーディネートするマルゴトやSET、受入れ家庭、まさに食材を提供する商店主など。心と経済の両方に効果が生まれることを目指している。

◆質疑応答◆

①各家庭での活動内容は多岐にわたるが、受入れ先が考えたものか？指導を行ったのか？

→民泊中は各家庭のありのままを体験してもらうので、受入れ家庭が独自に考えた。「何したらいいの？」との質問には「いつもやっていることをして下さい」とだけ伝えた。体験内容抜粋の資料（配布資料参照）は、参考として具体的な事例があると、新たに参加される方にはわかりやすいと考え作成した。食事の面で「できるだけ地元の食材を使って欲しい」とだけお願いをした結果、市内の産直が賑わった様子。陸前高田の商工会青年部から民泊振興券のような割引チケットを作れないかとの相談を受けており、これも相乗効果だと感じている。

②現在の受入れ戸数はどれくらいか？

→正式（受入れ家庭票の提出）には60～70。数百件軒は必要。

5,500円の体験指導料は2泊3日の金額？

→ひとり1泊の金額。大抵は一家庭で複数（4人程度）受け入れるので、2泊3日なら4万円程度になる。

高田に来る団体は10～20人など少人数でも対応してもらえるのか？

→可能。一クラス単位（50人）のものや、広田ではこれまでに大学やボランティア5～10人で来ていたケースもある。企業研修でも民泊が流行り出して、問合せが来ている。

市役所との関係（地方創生との関わり）やこの事業の継続性についてある程度の予算がついているのか？もしくは完全に民間の予算で運営しているのか？

→民泊事業推進のために税金を充てること、体験指導料の中に税金が含まれることはない。学校や旅行会社からの代金で回している。マルゴトスタッフの一部の人件費は復興支援員制度等（国の制度）で賄っているが、民泊事業の経費補てんに税金が使われることはない。

⑤受入れ先の同世代の子どもたちや市内の生徒との交流事業があるといい。また、受入れ先の内容の差など、今後コーディネート側で調整する必要がある部分も出てくると思う。

→学校交流はまさに今後やりたいと考えている。内容についてはあまり心配していない。食事や体験内容の豪華さではなく、受入れ家庭の皆さんとの人と人の交流や時間を大事にしている。受入れ家庭には「一緒にいる時間を一番大切にしたい」と伝えている。安全管理上の観点では、民泊先へのヒアリングを十分に行い、また、地域（女性会や青年会）などから紹介してもらう形で広げているところもある。基本的にはご夫婦の家庭にお願いするなど、安全な環境を準備する点はしっかり干渉していきたい。

⑥SETとの協力体制もあり、6月は海側での受入れが多かった印象。高田らしさは山側にもあるが、今後についてはどうか？

→陸前高田市全体で受入れていきたい。来年度は住田民泊協会との連携する予定もあり、市内全域、また気仙地域で受入れていきたい。開拓状況は正直海側が多い。横田はある程度進んでいるが、他はまだ手付かず状態。学校側からは、先生たちの宿泊施設から30分以内で受入れ先を配置して欲しいなど要望が出ることもある。ただ、市中心を拠点にすれば市内全土が対象となるし、ひとつの地域で何百人に対応するのは難しいことから、市内全体での受け入れを進めていきたい。

受入れをしてみたいという方たちに向けた一言アピールポイントは？

- （伊藤）「無償ではない」仕事を引退された方々が、再び生産人口となれる。
- （永田）「当たり前のももの価値に気付くことができる」生徒は何に対しても感動するので、自分たちの生活のまわりにあるものもの価値を振り返ることができる。
- （大久保）「お互いに元気をもらえる」高齢者は子どもから元気をもらい、子どもたちは親には言えないことを大人に話せる相互へのメリットがある。

⑦既存の陸前高田のファン層をスライドさせるものなのか？民泊という新しいコンテンツを使って新規のファン層を増やしていくものか？

→新規顧客を開拓するもの。さらに既存の顧客が乗っかってきているという実情もある。
市内で宿泊事業や外食産業に関わる方がいるので、既存ファンのスライドとなると、民泊事業に不安を感じる人もいると思っていた。

→内部でも気になっていた部分。実は、規模が数百人だと元々高田で受け入れることができなかつたが、民泊という形で受入れ可能となるので、これは新規顧客。新しいお客とその購買の機会も作っている。既存客のスライドではないという理解を広めたい。
他方、修学旅行受入れでは、先生方や旅行会社の引率者の宿泊場所と本部が必要になる。そこで、市内のホテルや民宿を利用していただきたいと考えている。民泊は全国で流行っている。高田ではグリーンツーリズムの観点だけでなく、震災を経験しているからこそその命の大切さを伝える付加価値があると感じている。併せて、受入れの頻度は春と秋に数回程度を考えている。

⑧岩手沿岸部での連携など、他地域とのつながりの現状は？

→大船渡では青年会議所と話をしている。まちに人を呼び込むために積極的に動いている組織なので、具体的なボールがあれば連携していけると思う。また、気仙沼では気仙沼イニシアチブとこれまでも連携してきた（インバウンドのツアー、企業新人研修での震災の事前情報収集を気仙沼→高田で研修など）。住田とは来年度の修学旅行受入れを一緒に行う。将来的に、気仙地域で人が来てお金が落ちる仕組みを作っていきたい。

3. 活動分野毎の討議・意見交換（グループ議論）

<1G 地域・コミュニティ>

仮設住宅と災害公営住宅の現場の様子や、各団体がどのように考えて動いているのかを共有。災害公営住宅では、日中の活動では人が出てこない現状がある。時間の経過とともに住民からいなくなったと思われたり、物資支援を嫌がられるケースもある。また、支援団体間でも、知らない団体が活動をしていると不安になるとの意見も出された。来月は、仮設住宅および災害公営住宅で「どんな団体」が「どんな活動」を「どんな予定」で行っているかの共有と、栃ヶ沢災害公営住宅での連携した活動について話をする予定。

<2G 子ども・教育／女性・子育て>

きらりんきっずが初参加。これまで2Gでどのような話をしてきたかを振り返り共有しながら、きらりんきっずから活動内容や課題など現場の声をいろいろ伺った。また、このグループは、テーマ範囲が非常に広いため、ひとつに絞ると話ができない団体もいるので、これからどうしていくかを次回議論していく予定。

<3G 商工・観光・産業>

第一部講演を受けて：①陸前高田に住んでいる人が地元の魅力を発見できる、②外から訪れた人が楽しめる、というそれぞれの目的に沿っていろいろな団体がいることを再確認した。同時に、情報が分散しているので一元化した方がいいとの意見も出された。アイデアとしては、高田旅ナビに口コミサイトを作ることや、民泊の受入れ家庭やお店に自由ノートを置くことなどを提案していけるのではないかな。

4. その他

➤ 各種告知

■ひまわりハウス

- ・8/7（日）～12（金）盛岡で特濃！ゲーム開発塾5が開催される。
- ・7/30（土）あんべ光利ふれあいコンサート 無料整理券をコミュニティホールで配布中
- ・8/11（木）～田崎飛鳥絵画展を実施予定。市内5カ所で展示しスタンプラリーも実施。

■マルゴト陸前高田

- ・7/16（日）りくラッツのアカペラコンサート@コミュニティホール 入場1,000円

■大船渡地域振興センター

- ・8/6（土）高田松原地区現場見学会 住民への周知協力をお願いします。支援団体も参加可能。

■陸前高田商工会

- ・7/21（木）連続勉強会第3回「バル」 参加者を募集中。

■陸前高田まちづくり協働センター

- ・7/22（金）13:30～陸前高田市保健医療福祉未来図会議 テーマ「通いの場づくり」
NPOの参加歓迎との話をいただいているので、興味のある方はぜひ。
- ・7/28（木）まちづくりコーディネーター育成講座第1回（全6回） 参加者募集中。

■地域福祉課

- ・8月中旬から高齢者向け「臨時福祉給付金」と「障害・遺族年金受給者向け給付金」開始

【次回の開催日程】

第38回 支援連絡調整会議

8月23日（火）10:00～12:00 コミュニティホール<<中会議室>> ※詳細は別途連絡